

勤務時間管理は管理職の責任 勤務時間外状況記録簿集計結果

昨年度の勤務時間外状況記録簿の集計結果が5月に各学校長あてに通知されています。全体として時間外勤務は増加傾向にあります。今年度から、80時間、100時間を超えた場合、メッセージや色が表示されています。勤務時間管理は雇用側の県や管理職の責任です。働いた時間を正確に入力し、自分の労働時間を把握して健康管理に努めましょう。

2013年度以降の集計結果比較

(1) 職員1人あたり月平均時間(単位:時間/月)

	13年度	14年度	15年度	16年度	16年度前年比
高等学校	29.8	29.4	32.6	34.0	1.4
特別支援学校	6.2	5.2	6.4	9.2	2.8
県立学校全体	23.8	23.0	25.4	26.8	1.4

(2) 1か月の勤務時間が一定以上である職員の割合(%)

① 月80時間～99時間

	13年度	14年度	15年度	16年度	16年度前年比
高等学校	4.8	4.8	5.4	5.5	0.1
特別支援学校	0.0	0.1	0.0	0.1	0.1
県立学校全体	3.6	3.6	3.9	3.9	0.0

② 月100時間～

	13年度	14年度	15年度	16年度	16年度前年比
高等学校	6.5	6.3	7.3	7.6	0.3
特別支援学校	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
県立学校全体	4.9	4.6	5.3	5.4	0.1

教職員の超勤・多忙化解消を考えるシンポジウム開催

日時：7月9日(日) 13時30分～16時30分

場所：盛岡市民文化ホール 大ホール(マリオス内)

主催：連合岩手、平環岩手県センター、岩手友愛会、岩教組、高教組

内容：・基調講演「教職員の働き方に対する提言」

講師 寺脇研さん(京都造形芸術大学芸術学部教授、元文科省大臣官房審議官、元文化庁文化部長)

・報告「教職員の働き方の実態について」

報告者 工藤祥子さん(神奈川過労死等を考える家族の会代表、全国過労死を考える家族の会公務災害担当)

・パネルディスカッション

コーディネーター 遠藤泉さん(岩手日報社論説委員)

教職員の長時間勤務が社会的にも大きくとりあげられており、私たちの働き方を変える大きな転換期です。今回の集会では教職員組合だけではなく、多くのみなさんに集まっていただき、私たちの勤務実態を考えていきます。たくさんの参加をお願いします。